

中山間地で集落ぐるみ型法人を中心経営体に位置付けたプラン

そとがはままち かみおぐに

(青森県外ヶ浜町上小国地域(H26.3作成、H27.3見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	津軽半島北部に位置する中山間地。地域内の農家数は47戸、農地面積は78.1ha、うち水田は74.9ha。
中心経営体	個別経営1名(1.0ha)、法人経営1(上小国ファーム構成員46名、77.1ha)
出し手となる農業者	なし
農地集積	現状(H25)78.1ha(集積率100%)

《特徴的な取組》

- ・ 当該地域は中山間地域であり、平成13年から中山間地域等直接支払制度を活用し、耕作放棄地を解消したことを契機として共同作業への機運が高まり、平成20年12月には集落ぐるみの全員参加型組織として「農事組合法人上小国ファーム」を設立した。
- ・ 「農事組合法人上小国ファーム」は、農業の衰退は地域(農村)の崩壊を招くと考え、年間農作業工程表を地域住民全戸に配布して参加可能な作業に登録してもらう等、構成員以外の非農家も含めて農業に参加できる仕組みを構築している。
- ・ 当該地域は、このように住民みんなが農作業に参加でき、住民の交流機会がある集落ぐるみ参加型の仕組みが構築されていたことから、プランの話合いもその延長線上で行い、プラン作成を円滑に進めることができた。
- ・ 上小国ファームでは、県の仲介を得て企業との連携による農業支援活動(CSR)も積極的に受け入れ、商品開発・販路の展開など企業ノウハウの獲得等ができた。
また、他の集落営農組織や自治会等で構成する「外ヶ浜町農業・農村活性化協議会」と連携し、米粉加工品の開発・販売、グリーン・ツーリズムなど6次産業化にも取り組み、収益向上に努力しており、平成27年からは、飼料用米に大きく転換のうえ(対前年181%)、経営の安定化を図っている。

《プラン作成・見直しの経緯》

- ・ 平成20年12月の「農事組合法人上小国ファーム」の設立までに6回の集落座談会を開催
- ・ 平成26年3月23日集落説明会でプラン原案を検討
- ・ 平成26年3月31日、プラン作成
- ・ 平成27年3月30日、プラン見直し



田植えの作業風景



農作業の合間のひととき

(外ヶ浜町位置図)

